

令和4年度学校経営計画表

1 学校の現況(2022年5月1日付)

学校番号	125	学校名	水城高等学校		課程	全日制	学科	普通科	理事長	山野内 吉明	
校長	小田部 幹夫		副校長	稲葉 節生		事務局長	加茂川 裕昭		事務長	鈴木 利久	
教頭	多賀野 雅章		檜山 敏明		荒川 伊望		システム管理室長	多田 昌弘		所在地：水戸市白梅2-1-45	
教職員数	管理職 8	教諭 76	養護教諭 1	常勤講師 7	非常勤講師 31	ALT 1	事務職員 8	技術職員 1	カウンセラー 1	寮母 1	教職員計 135
生徒数	1学年		2学年		3学年		全学年		1学年16クラス	43クラス	生徒計 1650
	男	女	男	女	男	女	男	女	2学年13クラス		
	367	267	282	187	334	213	983	667	3学年14クラス		

2 目指す学校像

○学力の向上を図り、グローバル化・多様化する社会に通用する人材の育成を目指す。
○主体的に学び、活動する姿勢を育み、自ら考え、判断し、行動できる人材の育成を目指す。
○部活動等の課外活動に意欲的に取り組み、活力ある学校を目指す。
○健全な道徳観を有し、敬愛・友愛の情をもって他者と協調し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

3 現状分析と課題

項 目	現 状 分 析	課 題
学習・進路指導	質の向上を目指した授業による日々の教育、朝夕の課外、個別面談、新課程にも対応した進路指導を心がけ、大学入学共通テスト2年目の本年も、多くの大学合格者を出した。筑波大9名、東北大6名、茨城大43名のほか、京都大・北海道大・一橋大・神戸大・九州大等国公立大学・大学校に178名、早稲田・慶應義塾等私立大学に781名(うち短大11名)が合格した。医学部医学科に7名、歯学部・薬学部に14名が合格した。また、継続して、本校独自の諸連絡システム等を日常有効に運用し、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う非常時にも、「遠隔授業」を実施し生徒の学習指導を継続できた。教員側も慣れ、工夫を施し、生徒・保護者だけでなく、外部の方々からも評価された。探究学習の場「水城の探究」も充実し、成果をあげている。	独自のICT環境をより効果的なものにし、生徒の主体的で創造性のある深い学びを促進するため、「授業動画配信」等も新たに試みる。コース制をはじめ、一人ひとりの進路希望をかなえる教育の実現に継続して取り組み、学習・進路指導を充実させ、国公立大学の合格率上昇、進学内容の充実を図る。
生徒指導	一貫して、基本的な生活習慣を身に付けさせるべく、頭髪・服装指導や交通安全について指導するとともに、日常から挨拶の実践やマナー意識の向上を涵養してきたことで、生徒は、全体的に落ち着いた学校生活を送れている。教職員の共通認識のもとで生徒に公正・公平に接し、定期的に意識確認を行いながら、心の問題やいじめ防止に常に注意を払い、生徒の急な変化に対する適切な教育的支援を心掛けている。	教育支援体制を更に充実させる一方、交通ルール遵守の徹底、SNS利用時のメディアリテラシー向上等を図る。18歳成人に相応しい常識・判断力、品位ある態度を育成する。
課外活動・特別活動	男子駅伝が13年連続16回目の全国大会出場を果たし、アーチェリー・空手道男子も全国高等学校選抜大会等に出場した。書道・写真・競技かるた同好会は全国高等学校総合文化祭に参加した。硬式野球は県ベスト4となった。女子駅伝は県2位で、女子バレー・空手道女子・陸上競技・剣道男子・水球水泳男子同様、関東大会に出場した。生徒会や各委員会も、健康管理に配慮しつつ行動し、美化委員会が、水戸市の道路里親制度で清掃作業を継続して行うなど各委員会が主体的な活動の幅を広げようと工夫している。	学業と部活動の両立を図り、創意を重んじ、他者を敬愛して、不屈不撓の生きる胆力を身に付けた生徒を育てる。生徒会や各種委員会活動・校内外諸活動の推進を図り、生徒の主体的活動を支援すべく可能な工夫をする。

4 中期的目標

1 ICT教育を充実させ、主体的で深い学びを実践し、学習意欲が高く活気にあふれた生徒の集団とする。
2 継続的に高い進学実績を積み重ねることで、確固たる進学校を目指す。
3 安心で安全な落ち着いた環境の下で有意義な学校生活を送ることができるよう、生徒指導・生徒支援を徹底する。
4 新型コロナウイルス感染防止等健康管理に十分配慮しつつ、部活動や校外活動等に有意義なかかわり方をさせる。
5 学業と部活動をととして心と身体のバランスのとれた人材を育成する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
授業の質の向上を目指す。	タブレット導入6年目。全生徒がタブレットを所有する充実したICT環境をより向上させ、長期にわたるコロナ禍でも継続的に主体的で効果的な学びを実現し、大学入学にも対応できる学力を身に付けさせる。
	十分な教材研究を積み、新たな指導法を研究し取り組んだり、教員間で授業見学を行ったり、コロナ禍の下、安全に十分配慮しつつ、外部の情報を受け入れたりすることで研鑽し、質の高い授業を展開できるよう努力する。
	定期的実施する生徒からの授業アンケートの結果を自身の指導に生かし、常に授業の改善・工夫に努める。
きめ細かい進路指導を実施する。 国公立・難関私立大学等、希望する大学に多数の合格者を出せるよう努力する。	個別面談・LHR・集会をはじめとして、学校生活の各場面で生徒をよく観察・把握し、生徒の適性や希望に応じたきめ細かな進路指導を工夫して行う。
	コロナ禍でも、安心安全に十分配慮し、可能な範囲で各種講演会や各種研修会を実施し、教育の現状や実態を十分理解して、幅広い見識をもって進路指導にあたる。
	新入試問題の傾向分析と模擬試験結果の分析を、定期試験の作問のスキル向上等に反映させ、日々の授業での学習指導や放課後の学習指導の場である「ゼミ」での活動を通し、生徒の学力の増進を図る。
生徒が落ち着いて学習でき、安心して安全に学校生活を送れるような環境を整える努力をする。	多様化する生徒の実態を踏まえて、教職員チームによる支援体制をさらに充実させ、引き続き、進路変更の防止を目指し、生徒が充実した生活を送れるよう必要な研鑽を積みつつ、対応する。
	通学路での交通安全指導により、交通ルール遵守と公共の場でのマナーを身に付けさせることを含め、18歳成人の時代に、一人前の社会人としての資質を備えられるように研鑽し、教育に活かしていく。
	発達した情報化・国際化社会を生きる人間としての自覚を持たせ、SNS利用時の注意点などを踏まえたメディアリテラシーをしっかりと身に付けさせられるよう工夫する。
募集広報活動を充実させる。	普段から生徒をよく観察し、また面談やアンケートを活用し接していくことで、心の問題やいじめの早期発見・防止に努める。
	本校の教育理念に共感する入学者を確保するために、組織的・計画的に、毎年新たな工夫をこらしつつ、広報活動を行っていく。
	コロナ禍の中でも、安全に部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、学業と両立して、充実した高校生活を送れるよう支援する。
特別活動を活性化させる。	清掃奉仕活動等を通して、公共心や社会性、他者を思いやる気持ちを養うとともに、世界的な環境問題等を考えるきっかけを与える。
	生徒会や委員会等で、生徒がより主体的に活動できるよう、学校行事の機会等を有効に使い、具体的に適切な助言・支援を行う。